

第1回 あげお未来創造市民会議 会議録

1. 日 時 令和元年5月25日(土) 9時00分～12時00分

2. 場 所 上尾市役所7階 大会議室

3. 出席者 委員：飯塚 純・市倉育江・伊原広茂・大木晴夫・大澤サユリ
岡部千里・小川和男・小川早枝子・河原塚透・木村功一
桐原陽子・小島 勝・小牟田健治・関本正弘・高橋雅之
竹村絵里・中澤正俊・萩原和也・本城文夫・増田澄雄
的場保子・宮田敬生・矢島通夫・山尾三枝子・山口 直
(欠席委員 大塚常司・鈴木靖代・刀根正克・野田紘良・能登 貢)
事務局：行政経営課野崎課長・本郷副主幹・東海林主任・三浦主任
加藤(チーフ)：永澤副主幹・松本主査・鈴木(彰)主任・大橋主任・鈴木(陽)主任
吉岡主任・野澤主任・田中主任・林主任・細井主任・石川主任
野間主任
コンサルタント：株式会社コーエイリサーチ&コンサルティング

4. 次 第

〈あげお未来創造市民会議委嘱式〉

- 1 開会
- 2 あげお未来創造市民会議委員の委嘱
- 3 上尾市長あいさつ

〈第1回あげお未来創造市民会議〉

- 1 開会
- 2 市民会議の概要説明
 - ・市民会議の位置付け
 - ・スケジュール
- 3 市民会議開催に当たって～上尾市の現況について情報提供～
 - (1) 上尾市の人口等の分析
 - (2) 上尾市の財政状況及び主要な計画
- 4 グループ討議
 - ・第6次上尾市総合計画を策定するうえでの前提条件の考察
(グループ内での意見交換)
 - ・発表
- 5 その他
- 6 閉会

5. 配付資料 次第

あげお未来創造市民会議委員名簿

資料1：市民会議の概要について

資料2：第6次総合計画策定スケジュール（イメージ）

資料3：第1回あげお未来創造市民会議資料_上尾市の現況

資料4：上尾市の財政状況及び主要な計画

第5次総合計画後期基本計画（冊子）

第5次総合計画後期基本計画（概要版）

6. 議事概要

〈あげお未来創造市民会議委嘱式での市長あいさつ要旨〉

皆様おはようございます。ただいまご紹介をいただきました、市長の畠山でございます。本日は早朝からお集まりいただきまして、誠にありがとうございます。また、先ほどは委嘱を快くお引き受けいただきまして、感謝申し上げます。さて、総合計画は市の各種計画の最上位計画であり、今後10年間、市が向かうべき方向性を指し示す重要な計画となります。今回お集まりいただきました皆様は、市内の各分野に精通され、豊富な活動経験をお持ちであり、市政について大変熱心にお考えいただける方々と存じております。次期総合計画策定に向け、ぜひ皆様の知識や熱意を遺憾なく発揮していただければと思います。今後、人口減少に伴う税収減や高齢化に伴う社会保障費の増大、公共施設の老朽化といった全国的な問題がますます顕著になってくるとみられる中、本市においても、こうした課題の改善・解決に向けた取り組みが求められています。簡単な道のりではありませんが、今後も市民の皆様に「住んで良かった」と感じていただき、他市の皆様にも魅力を感じていただける上尾市にしていかなければなりません。そのためにも、将来を見据えた持続可能な市政運営を実現するための総合計画を策定する必要があると考えています。市民会議の任期は令和3年3月31日までと、長期にわたりますが、さまざまな視点からのご意見を賜ることができれば幸いです。どうぞよろしくお願い申し上げます。

〈第1回あげお未来創造市民会議〉

1 開会

事務局：それでは、第1回あげお未来創造市民会議を始めさせていただきます。はじめに配付資料の確認をさせていただきます。

《事務局から配付資料の確認》

2 市民会議の概要説明

事務局：それでは、次第に沿って進めてまいります。「2 市民会議の概要説明」について、事務局から説明いたします。

《事務局が資料1、2に基づき、総合計画の策定体制や今後のスケジュールなどについて説明》

事務局：ただいまの説明について、ご質問、ご意見がありましたらよろしくをお願いします。

委員：任期は令和3年3月31日までとのことですが、資料2を見ると、最終会議は令和2年5月となっています。

事務局：資料2はあくまでも現在想定される予定であり、おおむね来年5月までに提言をまとめていただきたいと考えておりますが、会議の進行によっては多少前後することも考えられます。

委員：グループ討議で、市職員はどのように関わるのでしょうか。

事務局：市職員がグループに入り、書記などを努めつつ、市民の皆様と共に会議に参加してまいります。

委員：資料1の図中にある市民意識調査、市民コメントはいつ頃行うのでしょうか。

事務局：市民意識調査は昨年度実施しました。市民コメントは令和2年7～8月頃に実施したいと考えています。

3. 市民会議開催に当たって～上尾市の現況について情報提供～

(1) 上尾市の人口等の分析

事務局：次に次第「3 市民会議開催に当たって～上尾市の現況について情報提供～」です。

こちらについては、前半は(株)コーエイリサーチ&コンサルティングの横山様から「上尾市の人口等の分析」についてご説明いただき、後半は私が「上尾市の財政状況及び主要な計画」について説明させていただきます。

《コンサルタントから資料3に基づき、上尾市の人口や合計特殊出生率、健康寿命など各種データについて説明》

(2) 上尾市の財政状況及び主要な計画

事務局：ありがとうございます。続いて「上尾市の財政状況及び主要な計画」を説明いたします。

《事務局から資料4に基づき、市の予算総額や市税予算の推移などのほか、市の計画体系などについて説明》

事務局：ただいまの説明について、ご質問、ご意見がありましたらお願いします。

委員：人口減少や高齢化は市政運営における「前提」として理解できるのですが、税収減については、知恵を絞って改善していけないのでしょうか。

事務局：グループ討議では、まさにそのような内容についてご協議いただければと考えます。ただいまご説明しましたのは、あくまでも何も手を打たなかった場合の見通しであり、市民会議では、今後10年間に市がどのような政策に取り組んでいくべきか、アイデアをいただければと存じます。

委員：上尾市の今後向かうべき方向性について、市長の考えなどを知りたいと思います。

委員：市は財政的に困難な状況にあるとしながらも、新たな方向性の模索においては保守的であると感じます。袋小路を脱するには、発想の転換が必要ではないでしょうか。

委員：計画に連動する予算が今後どのように変わっていくかお示しいただければ、議論がしやすくなると思います。

事務局：次回改めてお示しできればと思います。

委員：目に見える斬新な施策は上尾市にはありませんが、これまでのところ人口が減っていないというのは、すごいことではないでしょうか。今後、人口減少が始まっても、そうしたトレンドにどう立ち向かっていくか提言するのが会議の役割だと思います。

委員：年少人口、生産年齢人口を増やすことが重要とのことですが、一般に若い世代は年収が少ないため、彼らの転入に対応して保育所や学校など公共施設を増加させることは、収支上の観点においては矛盾があるようにも感じます。現在、駅前にはマンションが乱立していますが、集合住宅内に公共施設を建設することができれば、市の歳出の抑制に効果的ではないでしょうか。いずれにしても、税収を増やしていくアイデアを考えるべきだと思います。

事務局：都市計画マスタープランにも絡む内容と考えます。会議でアイデアをいただければ、都市計画課にもフィードバックしてまいります。

《休憩》

4. グループ討議

事務局：それでは、会議を再開させていただきます。

《4グループに分かれ、第6次上尾市総合計画を策定するうえでの前提条件について協議し、発表した》

委員：Aグループでは、現行計画の進捗状況を検証した上で次回、具体的な課題を検討していくことになりました。現状では、「食品」「手土産」など「上尾といえば」といったものがないので、できれば類するものを開発し、地元商店街の持続的な産業につながればと考えました。また、多様性については、情報の「受け取り側」と「発信側」双方の視点が重要です。まず高齢者については、どのように情報発信を行い、安全を確保していくか検討しなければなりません。外国人についても、せっかく上尾市の住民になってくださった方々に対しては、生活・教育面で手厚

い対応が求められるのではないかと考えます。

コンサルタント：現行計画の検証から出発したいとのご意見をいただきました。Aチームの協議テーマの柱は「安心・安全・人権」であり、「手土産」など特産品に関する議論がどのように絡んでくるかは未知数ですが、いずれにしても「上尾だからこそできること」を追求する方向性は、外国人や高齢者の暮らしにも大いに関わってくると考えます。

委員：Bグループでは、今後10年間で上尾市が継続して取り組むべき5つの論点について協議しました。1点目は「健康経営の推進」です。健康経営とは、従業員等の健康管理、労働環境の衛生を「コスト」ではなく「投資」として捉え、取り組みを進めていくことを指します。2点目は「多様性を重視したまちづくり」です。多様性とは、健常者も障害者とともに、いかに楽しく豊かな生活ができるかを重視した概念です。3点目は「ボランティアの働き方改革」です。ボランティアは「自ら率先して取り組むこと」を含意しています。現在、高齢化が進みボランティア活動ができない人も増えてきています。また、退職した男性は、家にこもりがちになる人も多く、男性のボランティアが少ないという現状もあります。こうした方々には、ボランティアを通じた積極的な社会参加を促していきたいと思えます。平均寿命と健康寿命の差を縮める取り組みも求められます。4点目として、「第5次計画よりも悲観する部分は少ない」という認識に基づいた取り組みが挙げられます。現行計画でなかったテーマを掲げ、上尾市の活性化に向けた起爆剤にしたいという趣旨です。5点目は「外国人・障害者・高齢者からパワーをもらおう」です。上尾市では外国人が増えています。共に暮らす仲間として受け入れたいと思えます。

コンサルタント：「ボランティアの働き方改革」は非常に斬新な視点と考えます。ボランティアへの期待のあり方を問い直すことにもつながるかもしれません。

委員：Aグループ、Bグループは「ミクロな視点」で議論されていると感じましたが、Cグループではより俯瞰的な視野から協議を進めました。上尾市の特性として「そこそこ都会、そこそこ田舎」といった点が挙げられます。市の規模も、極端に大きくも小さくもなく、ある意味で特徴が掴みづらいですが、「強み」をつくり出していかねばなりません。「〇〇といえば上尾」といったイメージを構築したい。上尾市は工業で成り立ってきたまちであり、「工業のまち 上尾」といったフレーズも考えられるほか、「観光のまち 上尾」「災害に強いまち 上尾」を推す意見もありました。仮に「災害に強いまち 上尾」を推進するのであれば、地盤の強固さを訴えるだけでなく、電気や水道など、インフラのレジリエンスを強調できるまちにならねばならないと考えています。このほか、個々の市民の独創的なアイデアを行政が支援できるようなまちになってほしいと思えます。この市民会議においても、若手職員がプロジェクトチームメンバーとして参加しているので、「横のつながり」を積極的に活かし、新しい取り組みを始めるための「夢を語る場」になればと考えます。また、行政には、企業が経営しやすい事

業環境を整えることも求められると思います。

コンサルタント：「鳥の目と虫の目」という言葉があります。地域を眺めるためには、俯瞰的な視点と凝視する視座との双方が重要になると考えます。Cグループからは、上尾市も強みをつくり出していかねばならないとのご意見がありました。「母になるなら流山市」とのキャッチコピーを打ち出した千葉県流山市のように、電車内広告で積極的にPRに取り組んでいる自治体もあります。埼玉県内には地域資源に恵まれている地域が多いですが、必ずしもシティプロモーションに長けている自治体ばかりではありません。上尾市として地域の特徴を強調していくのは、大変有効であると考えます。

委員：Dグループです。「子育て世代の孤立化・貧困の深刻化」「虐待」「学童の保育料の支払いが困難な家庭の存在」「保護者の学校での負担増」「学校間の格差、人数の偏り」「学校統廃合」「魅力ある選ばれる学校づくり」など、子育て・教育をめぐる「現場の問題」は数え切れません。一方、他市から転入された方によれば、「学童の待機児童が0人である」など、上尾市の子育て環境で良い点も挙げることができます。こうした点を踏まえたシティセールスを行い、上尾市の魅力をアピールしてはどうかといった意見が出ました。また、従来と地域コミュニティのあり方も変化してきています。強制するのではなく、あくまでも自発的に参加できるような仕組みづくりが求められるのではないのでしょうか。

コンサルタント：「子育て・教育」という切り口からシティセールス、コミュニティ形成についてご意見をいただきました。

5. その他

事務局：ありがとうございました。その他について、事務局からお願いします。

《事務局から、次回の会議は6月15日（土）の開催を予定している旨、連絡があった》

6. 閉会

事務局：以上で、第1回あげお未来創造市民会議を終了します。ご協力ありがとうございました。

以上